

【臨床症例】

* 犬の骨肉腫（大腿骨）

- ・ 症例：ニューファンドランド、7歳齢、雄。
- ・ 経緯：1ヵ月半前に左後肢の跛行を主訴に近医を受診、関節炎の診断の下、鎮痛剤を投与していた。一時的に症状緩和するものの跛行が改善しないため当院へ転院。
- ・ 症状：左後肢の跛行（支跛）、一般状態は良好。
- ・ 検査：X線検査にて左大腿骨遠位の骨溶解および骨増生を認める。
リンパ節転移・遠隔転移所見なし。
骨生検により骨肉腫と診断。
- ・ 臨床診断：骨肉腫 T2 M0。



左大腿骨



断脚した患肢



術後

- ・ 治療：外科手術による左後肢体幹部断脚術。
- ・ 確定診断：骨肉腫 T2 M0。
- ・ 経過：疼痛が無くなり良好なQOLを確保、3本脚での自立生活可能。
術後、カルボプラチンによる補助的化学療法を5回実施。
術後1年に肺転移が確認され、術後1年3ヶ月に死亡。

【臨床症例】

* 犬の骨肉腫（上腕骨）

- ・ 症例：グレートピレナー、8歳齢、雌。
- ・ 主訴：1ヵ月から左前肢の間欠的跛行を示す。
- ・ 症状：左後肢の跛行（支跛）、一般状態は良好。
- ・ 検査：X線検査にて左上腕骨近位の骨溶解および骨増生を認める。
リンパ節転移・遠隔転移所見なし。
骨生検により骨肉腫と診断。
- ・ 臨床診断：骨肉腫 T2 M0。



左上腕骨

- ・ 治療：断脚術を提示するも希望せず、対症療法のみ。
- ・ 経過：診断後4ヶ月に死亡。

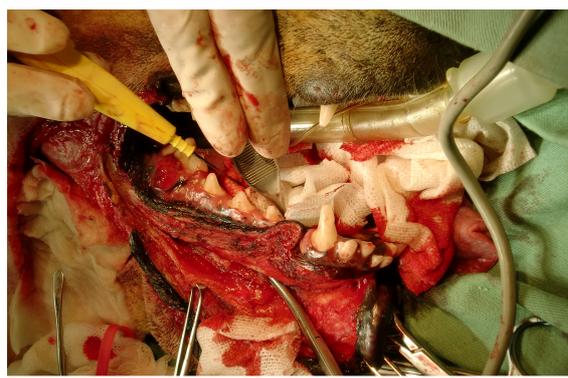
【臨床症例】

* 犬の骨肉腫（下顎骨）

- ・ 症例：G・レトリバー、11歳5ヶ月齢、避妊雌。
- ・ 主訴：口腔内出血。
- ・ 症状：右下顎歯肉に腫瘤、一般状態は良好。
- ・ 検査：生検により骨肉腫と診断。
リンパ節転移・遠隔転移所見なし。
- ・ 臨床診断：骨肉腫 T1b N0 M0 ステージ1（口腔内腫瘍）。



右下顎の腫瘤



全片側下顎切除術

- ・ 治療：全片側下顎切除術および下顎リンパ節切除。
- ・ 確定診断：骨肉腫 T1b N0 M0 ステージ1（口腔内腫瘍）。
マージンクリアー、脈管内浸潤なし。
- ・ 経過：疼痛が無くなり良好なQOLを確保、自力採食可能。
術後、ドキソルビシンによる補助的化学療法を5回実施。
術後9ヶ月に乳腺癌（T1 N0 M0）、術後1年5ヶ月に肺転移が確認され、術後1年9ヶ月に死亡。

【臨床症例】

* 犬の骨外性骨肉腫（空腸）

- ・ 症例：マルチーズ、11歳齢、避妊雄。
- ・ 経緯：2ヵ月前からの食欲不振と数日前からの嘔吐を主訴に近医を受診。
対症療法でも改善が見られないため当院へ紹介受診。
- ・ 症状：食欲不振、嘔吐、体重減少。
- ・ 検査：各種臨床検査において消化管腫瘍を確認。
遠隔転移所見なし。



空腸に発生した腫瘍



切除した腫瘍

- ・ 治療：開腹手術による切除生検術および腸間膜リンパ節切除。
- ・ 確定診断：骨外性骨肉腫 T2 N1 M0（消化管腫瘍）。
マージンクリアー、脈管内浸潤なし。
- ・ 経過：補助的化学療法を提示するも希望せず。
術後4ヶ月に癌性腹膜炎により死亡。